

「あなたに話したい」

主任司祭 晴佐久昌英

晴佐久神父の説教集「あなたに話したい」が出版された。自分の説教集が出版されるという思いもよらぬ事態に正直言って戸惑いはあるが、こうして世に出てしまった以上は産みの親としての責任が生ずるわけで、わが子を信じてきちんと育てていく義務があると感じている。

これは、ぼくが一昨年高円寺教会に赴任した最初の主日の説教から、翌年の復活祭の説教までを順に並べたものである。知っての通り、ぼくの説教はその週の様々な体験や感動を分かち合うことで「今、ここで」の神の働きを語り、その日そこに現実に集う人々に向かって「今、ここで」の福音を告げるというものである。したがって、そのつど夢中になって語ってきた一年間の説教が、期せずしてその年の高円寺教会の記録にもなっている。百年後の高円寺教会の信者がどんな思いでこれを読むかを想像すると、なんとなくうれしくなってくる。

しかも、これは単なる記録ではない。語ることで歴史を変え、変わっていく歴史をさらに語るという、語り手と聞き手の相互関係の生み出したとてもダイナミックな記録だと思う。今、ここで、あなたに語りかけることには力がある。現実を変えていくそんなことばの記録は、すなわち神の働きの記録なのだと思う。

純粹に聖書の内容を学問的に解説するだけの説教も意義深いとは思いますが、それはいつどこで語られても同じだろうし、もしかするとだれが語っても同じかもしれない。一年分を通読しても、そこに現実の歴史に働く神のわざが浮かび上がってくるなんてこともないだろう。

しかし、人は「今、ここ」で苦しんでいるのであり、神はそんな「今、ここ」に語りかけておられるのである。正確に言えば、この世界の「今、ここ」は、神のことばで創られ、神のことばに生かされているのである。いつどこでだれが話しても同じという死んだことばで、生きておられる神を語ることなどぼくにはできない。

浅薄な知識と軽薄な語り口についてはお詫びするしかないが、これからも「今、ここで、あなたに」語る奉仕を続けていくつもりである。神は今もあなたに話したいのだから。